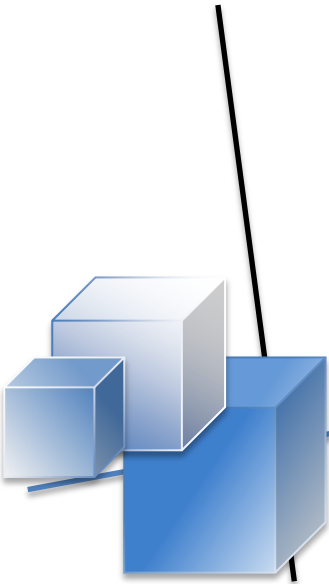




横浜 SSJ ニュース

第 号
年 月 日発行

発行：横浜 SSJ（特定非営利活動法人横浜市精神障がい者就労支援事業会）

〒231-0028 神奈川県横浜市中区翁町 1-6-7 関内伊藤ビル4F C号

TEL 045-228-8220 FAX 045-228-8221

発行責任者：理事長 菊地 綾子

編集：横浜 SSJ ニュース編集委員会

印刷：ワークショップメンバーズ

横浜 SSJ 理事長就任のご挨拶

菊地 綾子

この度、第9回総会で理事長に就任いたしました。今回は3年前に辞任しての再登板ということで、本人もなぜ？という思いが強い成り行きです。しかしながら、高齢ではありますが、力不足は否めませんが、想いを新たにすると皆様にお約束をしての就任となりました。

さて、横浜 SSJ はあらゆる機会に申し上げておりますが「横浜市精神障がい者就労支援事業会」という団体名が示しておりますように、精神障がい者の就労を支援することを目的とした法人です。その中でも「働く場」として、久保山事業所・北部事業所・戸塚事業所・脳血管（滝頭と改名）事業所・公園管理事業の5か所の援助付き雇用の事業を運営することを中心に据えて、この20年（NPO 法人市精連から分離）歩んできました。総会後には久保山事業所20周年記念パーティを開催し、内外の多くの皆様と祝いの席を設けることができました。誠に感謝でございます。

現在、この5事業所には合計72名の当事者が働いております。理事のお一人はこれだけ多くの精神障がい者を雇用している会社は日本中を探しても見当たらないと常々言っておられますが、これらの方々は施設利用ということでなく当会と直接雇用契約を結んでパート労働者として働いております。これは横浜市が委託事業、障害者の店（目的外使用許可）として仕事を当会に提供し続けてくださったからこそできた事業でもあります。それを受けて、当会では精神障がいを持ちつつ働き続けていただく為に、この20年間にわたり、様々な工夫を重ねてまいりました。定着が難しいといわれている方々が、多く長く働き続けて来られたゆえんです。20周年記念会では23名の方に10年以上の永年勤続の表彰を受けていただくことができました。

こうした素晴らしい実践を今後も守り育て、広く日本中に伝えて、より多くの精神障がい者が安心して働ける場を増やしてゆくのが当会の変わらぬ使命だと思います。云うは易く行うは難しというのが現実でもあります。再登板にあたり、理事会を代表して横浜 SSJ につながるすべての皆様のお力を結集して歩んでゆこうと決断しております。どうぞよろしくお願いいたします。

～ 祝 ～

久保山斎場が 20 周年を迎えました

久保山斎場 20 周年の節目に寄せて

～横浜市との協働で出来た精神障がい者の働く場、横浜の就労支援の歴史を振り返って～

(NPO法人) 横浜メンタルサービスネットワーク

鈴木 弘美

1994年6月横浜市衛生局(当時)から、斎場の建て替えに伴い、湯茶接待の委託業務を「障がい者の働く場」としてはどうかという提案があった。こうして横浜市久保山斎場湯茶接待業務が始まった。

精神障がい者の「働きたい」という願いを叶える事業であり、全国的にも先駆的な試みであった。

開設に当たり、常勤職員1人、非常勤職員2人、従業員12人を雇用した。従業員の労働条件は、①時給は最低賃金を補償した ②週3～4日/1日4～5時間の労働である。また、作業所に所属し、生活支援を作業所が担当し、就労に関しては現場が担当するということに役割を分担した。生活支援者と職場との連携が取れることを採用の条件にした。(基盤は集団アルバイトにある)

市精連単独での集団アルバイトから行政と協働しての就労の場づくりへと変化していった時代である。

実際の運営については、1つ1つが新しい試みであり、試行錯誤が続いた。スタッフは業務をこなすかわら、そこで働く当事者(以下、従業員)の体調にも気を配った。軌道に乗せるまでの3年間は、市精連の就労支援事業部に属するスタッフが何度も訪問し、会議し、調整していった。従業員の所属施設職員と、スタッフとの合同ミーティングは1年に2回実施され、様々な事項を共有し進んでいった。会議には30人以上が集まっていた。

最初はひとつの斎場で始まった業務であったが、次々と働く場は増え、現在5か所の業務を担い、従業員は80人に及ぶ。

約30年前は試行錯誤の連続であった。久保山斎場は20年を迎え、横浜の精神障がい者の就労支援も約30年を迎える。エピソードも詰まっている。就職→結婚を叶えた人、就職→定年→第2の人生、就職→一人暮らし等々。先日、古い写真の中に久しぶりの顔に出会った。40歳後半から50歳代で久保山に就職した人は、「ここで定年を迎えて『働かなければ』から解放されよう」を心に秘めて働いていた。そして定年を迎え、70歳を過ぎた頃この世を去っていった。この20周年に参加することはできなかったが、「いい人生だった」とひと時でも思ってもらえたらどうか・・・

久保山斎場には、そんなドラマがたくさんある。横浜市は本当に大きな素晴らしい贈り物を私たちに送ってくれた。

今の就労支援は、あまりにシステムティックになってしまい、ダイナミックさが乏しくなっているようにも感じる。しかし、私たちはこれからも多くの精神障がい者の「働きたい」を実現し、「働く場」を確保し続けることを誓う。久保山斎場の20年は、横浜市が精神障がい者を如何に大事にしているという証しである。今後も久保山事業所ほかを横浜市と共に責任を持って継続していきたいとおもっている。

(この原稿は、「横浜SSJ久保山事業所20周年記念会」の記念誌より抜粋して掲載しました)

久保山事業所 20 周年 パーティーのご報告

久保山事業所は1995年6月に横浜市と随意契約を結び、受託事業が開始して今年で20年を迎え、2015年5月28日久保山事業所20周年記念パーティーを横浜開港記念会館にて開催いたしました。



久保山斎場長をはじめ、職員・従業員のOB、従業員が所属する関係機関を来賓としてご招待し、法人内事業所の職員・従業員あわせて約100名近くが出席いたしました。また、浦島共同作業所がバリエーション多くの食事や飲み物を準備して下さいました。第一部の記念式典では、理事長および来賓の挨拶の後、永年勤続従業員の表彰式を行い、今回は勤続10年以上が対象で総勢23名が表彰されました。第二部の懇親会では、久保山事業所で働いている皆様の姿を映像で流したり、出席していただいた方からお祝いの言葉をいただきました。

20周年を記念して、今回は記念誌を発行いたしました。立ち上げ当初から関わっている理事の方はじめ、久保山事業所で働いている皆様がいろいろな想いをこめて書いております。また、表紙は当法人「すきっぷ」のメンバーさんが、つながりをイメージしてデザインしてくれました。興味のある方は、ぜひ読んでいただきたいと思います。

最後に、久保山事業所従業員が20周年の寄書きをしてくれました。ほんの一部ではありますが、ご紹介いたします。

- ・継続は力なり ・久保山に栄光 ・感謝
- ・久保山の半分を共にしてきました。これからも久保山と歩んでいきたいと思います。
- ・障害者の働く場の更なる広がりを願っております。
- ・この仕事に携わられていろいろな事を学ばせてもらいました。
- ・久保山事業所が益々発展し、働きやすい場所でありますようお願いしています。
- ・歴史の節目に立ち会えて幸せです。30周年にも立ち会える様頑張ります。



久保山事業所：職員・津田 朱音

横浜SSJ事業所から

《A型事業所・さら》

就労継続支援A型事業に携わって
～短時間利用の視点から～

さら 元施設長 虫生 玲

このたび、5 月末日をもちまして退職となりました。多くの方々にご指導頂き、充実した 10 年を過ごすことができましたこと、ここで感謝申し上げます。最後の 4 年間は県精連から経営移譲を受けたカフェガーデンさらを本体事業とした就労支援事業A型事業（以下A型事業と記載）の運営に携わらせて頂きました。そもそも精神障がい者を対象として訓練等給付事業で雇用であるA型事業を安定運営できる保証もなかったというのが、当時の状況でした。しかし、お陰様で4年間運営が継続でき、今年度は本体事業を補完するため、お菓子等の自主製品を製造販売する許可を得るための工場立上げに、ヤマト福祉財団より助成金を頂くことができました。完成を見ることなく退職となりましたことは非常に残念ですが、ほっとしているところです。皆様に支えられてのさらでしたが、引き続き、よろしくお願い申し上げます。

さて、さらは、現在に至るまでに事業を多角化しての取組みや、企業母体のA型と比べて、福祉母体だからこそ可能なA型事業の強みを考えながらの運営をしてきました。その経緯につきましては、横浜メンタルサービスネットワークの広報誌に記事を書かせて頂きましたので、ご興味ございましたら、ご覧いただけると幸いです。

2015 年 2 月 28 日、A型事業所の全国協議会が設立されました。企業母体としたA型事業所はすでに過半数を超え全国的に増えておりますが、その中の課題に短時間利用（短時間利用減算）がございます。

・短時間利用を中心とする事業所の意味

短時間利用とはA型事業において、企業にとって雇用率換算の基準となっている週 20 時間以上の勤務（利用）実態がないと短時間とみなされ、それに該当する従業員の割合に応じて減算になるという制度です。これは、本人の意向に関わらず、短時間勤務や短時間利用をさせていた事業所が確認されたことによる措置として制度化されたものです。

さらの場合は、主に精神障がいの方を対象とする事業所なので、雇用開始時から週 20 時間以上の勤務が可能な方を採用すること自体困難だと考えておりました。そのため、立ち上げ当初から、本人の意向を確認した上で、短時間（3～5 時間/日）を週 3～5 日シフトの組み合わせで勤務をして頂いてきました。精神障がいの方にとっては、体調が安定し、就労準備が整っていても、週 20 時間以上の勤務はハードルが高いという方も多く、そういう方達にこそ雇用の場を提供していくことが、さらだからこそ出来るA型事業の機能であるとの考えに至りました。

・A型事業は福祉サービス

さらの場合、利用者の半分の方は短時間利用に該当します。それなのになぜ減算とならない運営が出来ているの

か、それは運用の工夫をし、さららしいA型事業の運営を模索してきたからです。A型事業は福祉サービスです。そのため、さらでは、働く場の提供や就労・生活の支援だけでなく、研修やメンバー全員参加のミーティングの

2015年7月 日発行横浜SSJニュース 5

定期的な実施、リフレッシュや親睦会等の場を提供し、単に働きに来る場以上の魅力ある事業所作りを目指しました。また、A型事業のサービスはメンバーと一緒に作り上げる支援計画にすべて基づきます。各人が週どのくらい働きたいのか、活動したいのかを定期的に見直し、週4日以上活動したい方については、減算の算定基準である週20時間以上を達成できるよう、シフト調整を行っています。

さらに在り方を全国の障がい者雇用をしているA型事業所や企業の中に当てはめて見ると、企業母体のA型事業所、特例子会社や一般企業といわゆる作業所と呼ばれていた福祉サービス事業所の狭間に位置する事業所でありたいと考えています。週20時間以下でも自分のペースで自分の力を発揮したいと考えている半数のメンバーとも、支援計画に基づき、活動ペースの調整を行っています。その結果、A型事業の運営基準にもあるように、雇用契約を結ばないで活動する方を置ける規定を活用し、訓練生という制度も作りました。最近では、さらの中でも、雇用契約に基づき、支援計画に定めた日数を安定して勤務をする方、週5日勤務をしているが、時間的に物足りず一般就労を目指す方、A型でもハードルが高いと確認し、訓練生に一次的に戻って活動を継続する方、従業員から当事業所職員に昇格して働いて頂く方と様々な利用者の形が見えてきました。

・様々な働き方を実現していく

精神障がいの方の就労支援に携わって、就労の最終目的は携わらせて頂いた方たちの希望もあり、一般企業に就労することだと思い、必死に職場開拓をしてきた時期もありました。しかし、送り出した方たちの半数は1年以内に退職を決意されました。やはり、一般就労というのは私たちには図り知れない、困難さがあるのだと今は理解しています。それゆえ、一般企業に近い形で自分たちの力を発揮できる職場で、身近に専門家の支援を受けられるさらのようなA型事業において雇用の機会を広げていくことこそ目指すべき道だと考えていたところでした。私は、道半ばとなりましたが、残るスタッフがこの思いを引き継いでくれると考えています。

最後に全国に先駆けて、精神障がい者がグループで就労する場を行政と協力して作り上げた、歴史ある久保山事業所や北部事業所の取組みは横浜市の財産であり、ぜひ、今後も継続されますことを併せて願うばかりです。

虫生さんへ

さら開所時から4年間、そしてSSJでの10年間お疲れ様でした。さら立ち上げ時では、A型事業所としての運営にご苦労され、また、A型で就労すること、継続していくことの意味を教えてくださいました。ありがとうございました。アメリカへ行かれましてもお元気でお過ごし下さい。(さら職員&メンバー)



《北部事業所》

「北部事業所へ勤務して」

働きはじめた当初は、何で掃除の仕事なんかやるの？と言われた時期もありましたが、病気になってしまったという事実もあり、そう職業も選べないと思いました。変なプライドを捨てて任せられた仕事をしています。仕事をするという事は、ただお金を稼ぐというイメージしかわからない方もいらっしゃると思いますが、社会参加をしているという実感があり、生きがい、やりがいにも繋がっています。

北部事業所へ勤務して13年目となった今、振り返ってみると辞めていった人達も今までたくさんいましたが、そういう事も含めて、たくさんの人達と出会えたというのは自分にとって財産だと思います。今では、北部事業

所でより長く働きたいと思うようになりました。

最後に、福祉の世界にご理解下さり、私達を支えて下さる関係者の方々や理事さんはじめ、職員さんには心から感謝しています。ありがとうございます。

北部事業所 山本 毅

《ジョブアシスト横浜・ワークショップメンバーズ》

多機能型事業所『2015 年度の事業運営にあたって』

5 月 28 日に横浜 SSJ 総会も終わり、2015 年度も本格的に動き始めました。私自身も昨年 4 月に多機能型事業所(ジョブアシスト横浜・ワークショップメンバーズ)に赴任して丸一年が経ちました。本年度もメンバー、スタッフともに目標に向かって運営していきたいと思っております。ジョブアシスト横浜につきましてはこれまで以上に、充実したかたちで就労準備プログラムに取組みながら、一般就労を目指すメンバーへの就職支援、そして一般就労へ移行、卒業した利用者が就職先で安定して長く働けるような定着支援に力を注いでまいります。ワークショップメンバーズにつきましては、様々な利用目的を持ったメンバーが安心して、安定通所ができるような個別支援、環境づくりに努めていきたいと思っております。具体的な活動としては、横浜 SSJ の強みを活かして法人内事業所を活用した職場実習、所外活動を積極的に行っていきたいと思っております。

また、授産活動におきましては、昨年度の障害者優先調達推進法の本格施行により、受注が拡大傾向にあります。2014 年度は受注ベースで予算比 188%、前年度比 225%、工賃支給ベースでは前年度比 192%、予算比 125%、利用者 1 人あたりの平均工賃で見ますと 2013 年度は時給¥137、月額¥3,461 に対し 2014 年度は時給¥234、月額¥6,336 という実績をあげることができました。内職作業につきましては昨年度 1 年間をかけて見直しを行い、採算性の良い作業にシフト、一方で印刷関係の依頼も多くあったのですが、従来の印刷機では機能が限定されてしまいかなりの依頼をお断りするケースが相当数ありました。そこで急遽、多機能印刷機(オンデマンド機)を新たに導入、フルカラー印刷をはじめ、多彩な印刷業務が可能となり受注拡大、工賃向上につながっています。まだまだ満足できる数字ではありませんが受注拡大、工賃の向上が利用者のモチベーションの 1 つとなり、また事業所のより一層の活性化につながるよう、今年度も引き続き、取り組んでまいります。

先日、久保山事業所の 20 周年記念式典が開催されましたが、ジョブアシスト横浜も設立 11 年目、ワークショップメンバーズにつきましては設立 21 年目を迎えました。開所した当時は利用者 10 名に満たない 2 つの小さな作業所でしたが、この 10 年間でジョブアシスト横浜の延利用者は 128 名、就職者数は 74 名、ワークショップメンバーズの登録者数は 57 名という多機能型の大きな事業所になりました。一方でワークショップメンバーズでは設立当初から在籍、21 年目を迎える利用者が 3 名、久保山事業所同様に伝統ある事業所です。制度、時代の流れとともに事業所も変わりつつありますが、長きにわたり運営を支えてきた利用者、伝統も大切にしながら運営をしていきたいと思っております。



計画相談支援（横浜 SSJ 相談支援室）中間報告

障害福祉サービスを効果的に受けていただくために、ケアマネジメントの手法に基づいて設定された計画相談支援、2014年8月1日には横浜 SSJ にても相談支援室として開設、2015年6月30日までの11ヶ月で、通算46件（月平均4件超）の受付をし相談支援を実践しています。2015年4月からは中区の地域活動支援センターすきっぷ内に相談室を常設、週5回9:00～17:00までの業務として拡充、現在、室長・相談支援専門員と事務担当者がほぼ常駐しています。

主担当エリアとしては、中区、西区、保土ヶ谷区ですが、法人内のA型、就労移行・B型多機能には、市内各地からおいでいただいているので、表のとおり、様々な区からの受付があります。

この事業を実施して聞こえてくる利用者の声としては、「自分でやらなければならないことがわかった」「いろんな相談できる機関があることがわかって安心した」「道筋、目標が見えてきた」などです。また、区役所の担当者、事業所の担当者と相談支援専門員、更には生活支援センターや障害者後見的支援室も加わり、ひとりひとりの地域生活や職業生活を支えるネットワークが形成される良さがあります。

状態の変化により、利用を始めた事業所を離れざるを得なくなったり、体調不良や周辺環境の変化で、目標へのステップを踏む速度が弱まったりする方もおられますが、悩む時こそ、主治医のご意見や信頼できる方との親身な相談にて、乗り越えられているようです。

一大決心して受講を開始した障害福祉サービスも、特に通所のプログラムなどでは途中で迷いが発生することも少なからずあります。悩んだときの相談相手として、支援チームを作ったり集めたりする仲間として、いつでもご利用いただければ幸いです。

表 利用者の居住地と実施中（実施予定）の障害福祉サービスの内容

	保土ヶ谷区	西区	中区	南区	旭区	港南区	戸塚区	金沢区	港北区	市外、県外
就労B	12	1	2		4	2	2	1	1	1
就労移行	5		2	1						

就労 A	1			2			1	1		2
生活訓練	1		2							
その他	1			1						
区ごと計	20	1	6	4	4	2	3	2	1	3

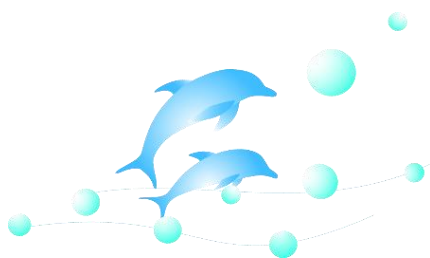
〒231-0048 横浜市中区蓬莱町 2-6-1 ライオンズマンション関内第 3 1 階 横浜 SSJ 相談支援室

開所時間：月曜日から金曜日（9:00～17:00） Tel 045-250-5280 Fax 045-250-5281

* 時間外及び緊急時 090-2568-5727 *

担当：室長・相談支援専門員 青柳 智夫

[事務：田中・脇本]



《地域活動支援センターすきっぷ》



～すきっぷの地域活動～

すきっぷの今年度計画の中に、「地域との繋がりや、メンバーの持っている力を発揮する機会を増やしていく」ということが掲げられています。

その第一弾として、中区障害者団体連合会（中区障連）がイオン本牧店の協力をいただき行っている販売会に参加してきました。

事前の打ち合わせ会に、メンバーさんも参加。すきっぷは販売するものはないが、お客さんと呼び込むことはできるので、販売会を盛り上げるためにボランティアとして活動することになりました。

当日は2名のメンバーさんが参加。バスから降りてくるお客さんに自分から声を掛け、販売会をやっているブースを分かりやすく宣伝してくれました。また、販売会の後に周辺の清掃活

「連休の過ごし方」

～ゴールデン・ウィーク編～

今年のGWはカレンダー通りだと4連休。

メンバーOさん：4連休は長い～。どう過ごせばいいの？

職員：たまには4連休が欲しい！！

この永遠のテーマをどうするか？そこで出てきたアイディアは、「メンバー有志でお出掛けする」です。

早速、メンバーが声かけのチラシを作り、賛同したメンバーさん同士で日程調整。行き先は、手帳が使える「ズーラシア」に決定。

ズーラシアに行ったメンバーから**

・当日までに皆でよく確認したので、きちんと会う事が出来た。よく使う交通機関の駅を待ち合わせ場所にしていたのがよかった。

・スタッフがいないくても、回る順番を皆で相談して回る事ができた。

・GWの合間にイベントがあったのは楽しい。GWの過ごし方としては成功。

これで楽しく過ごす方法がまた一つ増えました。

秋のシルバーウィークも、これで安心して過ごせますね。

動にも参加し、公園のゴミ拾いをしました。普段何気なく通り過ぎてしまう所も、よくよく見てみると植え込み中に空き缶等が潜んでいました。気が付き始めると「拾わずにはいられない」状態となりメンバーさんは時間が経つのを忘れるほど熱心に。綺麗になった公園を見渡すと気持ちも清々になりました。

ボランティア活動に参加してくださったメンバーさんから

- ・地域の繋がりに貢献できたことが、自分の自信になった。
- ・普段出来ない「いらっしやいませ。どうですか？」と呼び込みをして、楽しかったです。

今回の販売会は、協力してくださった皆様、すきっぷメンバー（？）のおかげで、いつもの倍の売り上げがあったそうです。みんなで協力すると、大きなパワーになります。すきっぷも、街の中、地域の中で、ちょっとお役に立てる活動を今後も続けていければと。さて、次はどんな活動になるのか。乞うご期待です。

***** 福島県白河市のお米・五箇米を使って夕食会をしました！！ *****



中区・本牧に拠点があるサッカーチーム・Y S C Cさんからお米をいただきました。このお米は、福島・河内市の農家さんがY S C Cさんに寄贈。Y S C Cさんが地域の施設で活用してとのご厚意で寄付していただきました。すきっぷで行っている夕食会の時に、皆で美味しくいただきました。ありがとうございました。



すきっぷ職員・鈴木典子

メンバー・従業員の 「声・こえ・コエ」

今回は ～働く～をテーマに、皆さんに思いを表現してもらいました。

私にとって「働く」うえで、大事にしていること

さら 遠藤 秀人

私が、働くうえで気をつけている事は、人に対して優しく接する事です。話しをしていて、相手の笑顔が見られるとうれしいです。私は、人とのコミュニケーションを大事にしています。

私が、サラリーマンをしていた時のことです。人と話しをすることが苦手で、コミュニケーションが取れずに辛い思いをしました。自分の気持ちを正確に相手に伝えられず、嫌な思いさせてしまう事がありました。その時は、友人も出来ず一人寂しい思いをしました。そのような事もあり、作業所でコミュニケーションのリハビリを行いました。初めは大きな声で元気良く挨拶をする事から始めました。そのうち、人と楽しい会話も出来るようになり、少しずつ過去の辛い思いを忘れる事が出来ました。今では、人と話す事が楽しくてしかたありません。新しい出会いがあると、とても嬉しいです。



テーマ：「働く」ということ

私にとって「働く」とは、お金を稼ぐのも大事なことです、働いて体力をつけ、体力を持続させる目的があります。

私は、48 歳になりますが、体力の低下が年のせいにつくづく感じられます。病気が再発して 2 年間働けなくなり、再び北部事業所で働く機会が出来、働くことになりました。半年ほど実習生として働いて、ようやく従業員となり、体力を持続させ、働けるようになりました。北部事業所では、60 歳が定年なので定年になるまでに病気が再発せず、体力を維持し、働けたらと考えています。

北部事業所従業員 北井 一雄



障害を抱えながら働くのは、なかなか大変なことだと思います。

私は、今は月に 3 日しかシフトに入っていないので、本当はこんな所でえらそうな文章を書ける身分で

はないのです。ですが、スタッフさんの理解の元に、公園の清掃をやらせてもらい、文章も載せてもらえることになりました。

仕事は、テキパキまではいかないまでも、手順を覚えてきました。仕事は、慣れてくると楽しくなるのですが、飽きない工夫も必要です。給料日がやってくるたびに、気分がリフレッシュされるので、やっぱりお金は大事です。その代り、責任が生じてくるので、一回一回大切に働く必要があると思います。朝は早いので早めに寝たりします。目覚まし2つセットして、ちゃんと起きれるかドキドキです。

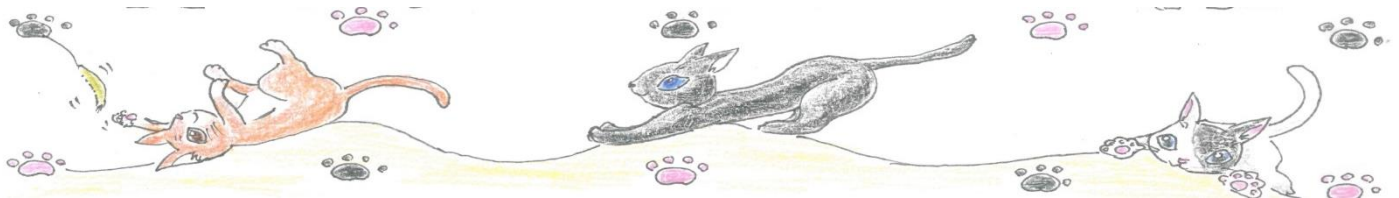
清掃は主にトイレなのですが、利用者の方が暖かい言葉をかけてくださったりします。公園の猫や犬に癒されたり、途中の教会で休憩したりもします。

えと。話がそれました。つまり、仕事は苦しいだけではなく、楽しい部分もあるから、仕事の日も思いっきり仕事をエンジョイしちゃえばいいと、そう思う次第なのです。そうすれば、仕事の日もいやじゃなくなるというわけです。

私のポジティブ法、役に立ちましたでしょうか？

このテクを使って職場を明るく楽しく盛り上げてくださいね。

すきっぷ・岡 秀郎



2015年7月 日発行横浜SSJニュース 11



私は仕事をした経験があまりなく、仕事がどのような感じかどのように大変かもまだ知りません。でも私は仕事をしてみたいです。

理由は仕事をしたら毎日が充実して自信が持てもっと自分を好きになれる気がするからです。そのために自分に合った仕事を私は探していきたいです。私は自分自身が思っていること、感じていることがよくわからなくなるときがあります。でもそんな自分を変えていく良い機会だとも思います。自分に向き合い自分の意見を知って向上していけるというのは私にとってとても嬉しいことです。そのため周りのスタッフさんやメンバーさんの意見やお話も参考にしていきたいし、自分のやりたいことを知るため色々なことに挑戦していきたいです。

仕事をするのはきっと大変なことだと思いますが楽しく一日一日を大切に懸命に努力して達成感を味わいながら仕事をしていくことができたらと思っています。

(ジョブアシスト横浜・A.S)



テーマ 『働く』

私は、社会との繋がりを持って生きがいを感じたいから仕事をしています。

病気を発症してから、仕事に就くことも出来ず、家に閉じこもることが多く、社会との繋がりを絶っていました。また、何のために生活をしているのかを考える事がありました。

現在は就労してパソコンを使った業務に従事しています。社会との繋がりを持つ事で、何のために社会の役に立っているのかを感じる事ができます。それは喜びにもなり、生きがいにもなります。就労するという事は想像以上に体力も使い、精神的にも疲弊します。

しかし、社会と繋がりを持つ事で、人と出会い、良い事、嫌な事、様々な繋がりを生み出せるものだと思っています。病気を理由に家に引きこもっていても何もいい事はないと思いました。社会の中で生きて、良いも悪いも経験することで自分が成長する事ができると感じてます。

特に人との出会いはかなり重要だと感じてます。私はジョブアシスト横浜に通所し、様々な方々と出会う事ができ成長できたと思います。

K. W

現在、横須賀市にある公園で働いている S さんに、「はたらく」をテーマにお話をさせていただきました。

Q. 現在、働いているところにつとめてどれくらいになりますか？

A. 4 年目です。

Q. 4 年続くというのは長いことだと思うのですが、何か秘訣はありますか？

A. 自分自身に対する悪いこと（自分はあれができない、これができない）を「気にしない」こと、ですが「気にしなすぎ」も良くないので、バランスが肝心です。

自分ができることを確実にこなす。これは間違いなくできる、この分野でなら自分にまかせてくださいの、強みを作る、も大事です。基本ができてからは、他のこともできることを伝え、次のステップに進む感じです。

Q. 以前から聞いているお話しによると、欠勤しない人というイメージがあるのですが、休まず勤務、毎日ける工夫を教えてください。

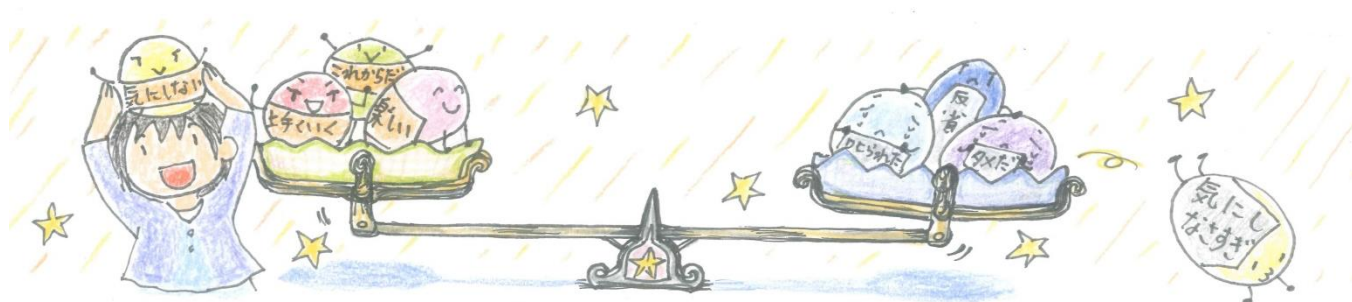
A. 悪いこと、「アレができなかった」、「自分はダメだ」、みたいな考えは忘れる。逆に、楽しいことや上手くいった時のことを思い出す。あの時、こんな風に対処できた、といった成功体験を思い出す。また切り替えが大事。で、次の日も職場に行ける。

また、これがあるから頑張ることができるを作る。いいお客さんと出会うことができたらいいな、とか小さい目

標があるといいと思います。

叱られたり、反省することもあるって、次に改善する工夫や留め置いた方がよいこともあります。今日は新しい日ははじまる、と考えるようにしています。

(すきっぷ メンバーS)



《会費・寄付者納入報告》

2015 年度 6 月末までの会費・寄付の状況です。

- | | |
|------------|-------------|
| ・個人会員 49 名 | ・団体会員 16 団体 |
| ・賛助会員 8 名 | ・寄 付 6 件 |



いつもありがとうございます。精神保健福祉の向上のため、大切にさせていただきます。
